

安全データシート

[混合物用(塗料用)]

1. 化学物質等及び会社情報

製品名 非塩素系塗料はがし剤スプレー
 種類 塗膜はく離剤
 主な用途 家庭用
 会社名 株式会社カンペハピオ
 住所 〒675-1322 兵庫県小野市匠台3番地
 担当部門 技術部 TEL No.0794-64-0002
 担当者 技術部 部長 FAX No.0794-64-0055
 作成者 平野良訓 作成・改定 2017年8月8日
 ホームページアドレス <http://www.kanpe.co.jp>
 緊急連絡先 技術部 TEL No.0794-64-0002 FAX No.0794-64-0055

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

可燃性・引火性エアゾール	区分1
引火性液体	区分3
急性毒性 経口	分類できない
経皮	分類できない
吸入 (ガス)	分類できない
(蒸気)	分類できない
(粉塵、ミスト)	分類できない
皮膚刺激/腐食性	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A
呼吸器感受性 固体/液体	分類できない
気体	分類できない
皮膚感受性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分2
授乳に対する、または授乳を介した影響	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露)	区分3 (麻酔作用、気道刺激性)
特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露)	区分1 (骨髄、脾臓、副腎、腎臓、呼吸器、肝臓)
吸引力呼吸器有害性	分類できない
水生環境有害性(急性)	区分3
水生環境有害性(慢性)	区分3
オゾン層への有害性	分類できない

【GHSラベル要素】



危険

【危険有害性情報】

- ・可燃性又は引火性のエアゾール 高压容器: 熱すると破裂のおそれ
- ・引火性液体および蒸気
- ・皮膚刺激
- ・強い眼刺激
- ・生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- ・呼吸器への刺激のおそれ
- ・眠気やめまいのおそれ
- ・長年にわたる又は反復暴露による臓器の障害
- ・水生生物に有害
- ・長期継続的影響により水生生物に有害

3. 組成及び成分情報

成分及び含有量(危険有害性物質を対象)

成分名	CAS No.	含有量(Wt%)	PRTR対象物質(1%未満通知不要)
ジメチルエーテル	115-10-6	60~70	
有機溶剤(水溶性)	特定できない	10~20	
エステル系溶剤	特定できない	1~10	
ソルベントナフサ	64742-95-6	1~10	
トリメチルベンゼン	25551-13-7	1~10	
(ソルベントナフサ含有物)			
1,3,5-トリメチルベンゼン	108-67-8	1.0	(1種)
(トリメチルベンゼン含有物)			
1,2,4-トリメチルベンゼン	95-63-6	4.0	(1種)
(トリメチルベンゼン含有物)			

8. 暴露防止及び保護措置

《組成物質の有害性及び暴露濃度基準》

物質名	管理濃度	ACGIH(TLV)	その他の有害性
シメチルエーテル	—	—	LC ₅₀ (mus,吸入): 385,940mg/30分
有機溶剤(水溶性)	—	—	LD ₅₀ (rat,経口): 3,914mg/kg
エステル系溶剤	—	—	LD ₅₀ (mus,経口): 8,532mg/kg
ソルベントナフサ	—	—	LD ₅₀ (rat,経口): 5980mg/kg
トリメチルベンゼン	25ppm	25ppm	LD ₅₀ (rat,経口): 8,970mg/kg
1,3,5-トリメチルベンゼン	25ppm	—	LD ₅₀ (rat,経口): 5,000mg/kg
1,2,4-トリメチルベンゼン	25ppm	25ppm	LD ₅₀ (rat,経口): 5,000mg/kg

《設備対策》

- ・排気装置を付け、蒸気が滞留しないようにする。
- ・取扱い場所の近くに高温・発火源となるものが置けない設備にする。
- ・液体の輸送・汲取り・攪拌等の装置は接地する。
- ・取扱い設備は防爆型を使用する。
- ・屋内塗装の場合、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるようにする。
- ・タンク内部等の密閉場所で作業する場合、底部まで十分に換気できる装置を取付ける。

《保護具》

- ・呼吸系の保護具 有機ガス用防毒マスクを着用する。
密閉された場所では送気マスクを着用する。
- ・手の保護具 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- ・目の保護具 保護メガネを着用する。
- ・皮膚及び身体の保護 皮膚を直接曝さないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

状態:(容器中)液体	色:微白濁淡黄色	臭気:有機溶剤臭
pH値:該当せず	融点:該当せず	沸点:145.7~204°C
引火点:52°C	発火点:情報なし	蒸気圧:392,266pa(20°C)
爆発限界:情報なし	密度(比重):剥離剤/噴射剤=0.98/0.66	
溶解度:水に難溶	n-オクタノール/水分配係数:情報なし	分解温度:情報なし
蒸気密度:情報なし	その他:特になし	

10. 安定性及び反応性

《反応性・安定性》

- 接触により危険性のある物質:情報を有していない。
- 燃焼などによる有害性ガスの発生:CO、NO_x等
- その他の反応性情報:情報を有していない。
- その他の危険性情報:情報を有していない。

11. 有害性情報

《組成物質の有害性及び暴露濃度基準》

物質名	皮	眼	呼	変	発	生	単	反	吸	水急	水慢	オゾン
シメチルエーテル		2B										
有機溶剤(水溶性)	情報なし											
エステル系溶剤	情報なし											
ソルベントナフサ												
トリメチルベンゼン	2	2B						3	2	1	2	2
1,3,5-トリメチルベンゼン	2	2B						3		1	2	2
1,2,4-トリメチルベンゼン								3	2	1	2	2

- 略記号
- 皮:皮膚腐食性・刺激性
 - 呼:呼吸器感受性または皮膚感受性
 - 変:変異原性
 - 発:発がん性
 - 生:生殖毒性
 - 単:特定臓器・全身毒性—単回暴露
 - 反:特定臓器・全身毒性—反復暴露
 - 吸:吸引呼吸器有害性
 - 水急:水性環境有害性—急性
 - 水慢:水性環境有害性—慢性
 - オゾン:オゾン層への有害性

《その他の有害性情報》

- 製品としての安全性試験は行っていない。

12. 環境影響情報

- ・漏洩、廃棄の際、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。特に、製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。
- ・生態毒性:情報を有していない。
- ・残留性・分解性:情報を有していない。
- ・生態蓄積性:情報を有していない。
- ・土壌中の移動性:情報を有していない。

13. 廃棄上の注意

《残余廃棄物》

- ・塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた廃棄物処理業者と委託契約して処理する。
- ・容器、機器装置等を洗浄した排水等は地面や排水溝へそのまま流さない。
- ・排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても“廃棄物の処理及び清掃に関する法律”並びに関係する法規に従って処理するか業者に委託する。
- ・廃塗料等を焼却する場合、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ処理する。

《汚染容器及び包装》

- ・空容器は内容物を完全に除去してから処分する。特にガスが残っていると危険なため、ガス抜き器具等で完全に抜取ること。
- ・塗料及びガスを使い切った後でも火中に入れると破裂する恐れがあるため、火中には入れないこと。
- ・許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

14. 輸送上の注意

《共通》

- ・取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、崩れ防止を確実にすること。

《国内規制》

- ・陸上輸送:それぞれの該当法律に定められた運送方法に従う。
- ・海上輸送:船舶安全法に定めるところに従う。
- ・航空輸送:航空法に定めるところに従う。
- ・国連番号:1950

15. 主な適用法令

- ・労働安全衛生法
- ・有機溶剤中毒防止規則:第3種有機溶剤等
- ・高圧ガス保安法:適用除外(可燃性ガス、液化ガス)
- ・消防法:危険物 第4類 引火性液体 第2石油類 非水溶性液体
- ・PRTR法:1,2,4-トリメチルベンゼン(物質番号296) 1,3,5-トリメチルベンゼン(物質番号297)
(該当物質1%以上含有が対象)

16. その他の情報

- ・主な引用文献: 原材料データベース (社)日本塗料工業会
GHS対応 SDS・ラベル作成ガイドブック[混合物用(塗料用)]改訂第2版 (社)日本塗料工業会
モデルMSDS・モデルラベル事例集[混合物(塗料用)] (社)日本塗料工業会
NITE公表データ 独立行政法人 製品評価技術基盤機構

〔注意〕

- ・本データシートは、現時点で入手した資料に基づいて作成しております。
当該製品の危険・有害性に関する情報及び評価は原材料の情報から推定したものであり、必ずしも十分なものではありません。
ご使用者の責任において安全な取扱方法をお決めください。
- ・本データシートは、新しい知見により予告なく改訂することがあります。
- ・記載内容の中で含有量・物理化学的性質などの値は当該製品の品質とは関係ありません。
- ・この安全情報は国の規制を含む、(社)日本塗料工業会の基準に基づくものでありますが、地方自治体の規制情報は含まれていません。
安全操業や排出・廃棄等の場合に配慮すべきことは、当該自治体の規制に従い対処してください。